

市発注工事請負4業者から2億7000万円の寄付 直江津の新水族博物館整備事業



今年度のビッグ建設事業である新水族博物館整備事業、新年度一般会計予算に82億784万円が計上されました。

14日の総務常任委員会では、この事業に寄付金4億4000万円ほどが充てられることになって注目に値し、その内容を明らかにするよう迫りました。

担当課長によると、寄付は「ふるさと納税」によるものと、一般的な寄付の2種類になります。その内訳は「ふるさと納税」によるものが3934万円（44人分）、一般的な寄付は4億1200万円ほどになるといいます。

注目したのは「ふるさと納税」以外の一般的な寄付金です。「水族館整備にお使いください」との寄付が14人分だけで、なんと4億100万円にも

なるというのです。

大口の募金があったことがわかりませんが、これらのなかには上越市発注の公共工事請負業者関係者から寄せられたものもありました。

課長答弁では5者（社と言ってもいいかもしれませんが）というところでしたが、これは委員会終了後、4者だったと訂正がありました。委員会の中では明らかにしませんが、その後の調査でこの4者の寄付金総額は2億7000万円にもなることが判明しました。

こうした寄付について担当課長は、「いい水族館をつくってほしいという思いに基づく、自発的な行為」で問題ないとのべ、野口副市長も「寄付はありがたいことだ」とのべました。

確かに、法的な規制はないようですが、市発注の工事を請負う関係業者がこういう形でかわってくるのは道義的に問題がありますし、市政をゆがめられる可能性があります。私は前橋市の「補助事業における契約手



ドラゴンフルーツが芽を出し始めています。春の息吹を感じます。

続き等の取り扱い

について」という文書を示しながら、「市によつては請負業者（下請け業者、その役員など）からの寄付金などの資金提供を受けるなど、一定の規制をしているところもある。検討すべきだ」と訴えました。

三セク経営改善めざし 施設経営管理室設置

私は13日の総務常任委員会第三セクターの経営改善について現状と今後の見通しについて質問しました。

私は、平成22年3月に議会に提出された「上越市第三セクター経営分析報告書」のなかで、「競争と売上の減少」「経営管理体制のせい弱性」「固定資産の所有問題」など6項目の共通課題があったが、いまはどうなっているかとたどりました。

担当課長は「Jホールディングスの設立によつて7社を束ねて食材の共同購入など経営改善を進めてきた。7社以外も定期的に経営状況を確認しながら取り組んでいる。新年度は観光振興の部門について重点的に経営改善を進める」とそのため、観光振興課



【アセビ】ツツジ科の常緑低木。漢字で「馬酔木」と書きます。先日からつぼ状の白い花を咲かせています。葉は楕円形で、表面はつやがあります。写真は市役所木田庁舎で植木の中のものを撮りました。15日撮影。

の施設係を拡充して、施設経営管理室を設置し、体制を強化する」と答えました。

また、私は「『固定資産の所有問題』が一部で全面的に解決していないのではないか。どんなものが、どの程度残っているのか」と質問しました。

担当課長は「Jホールディングスに参加した7社は整理がついているが、その他については3社ほど若干課題が残っている」と答えましたので、私からは、速やかに解決するよう求めました。



高田のYさんから送っていただいた絵手紙です。春を感じます。ありがとうございました。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1799 2017.3.19
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四四七回

賞状入れ

またしても弟の発見でした。

大潟区に住む弟から電話をもらったのは、半月ほど前、私が用があつて、市街地に出ていたときでした。「アニキ、面白いもん出てきたわ」そう言つて弟が語り出したのは、父がとつておいた「賞状入れ」の箱を見つけたという話でした。

電話の中から聞こえてくる弟の声には弾んだところがありませんでしたから、うれしかったのでしようね。

「賞状入れ」と言いましたが、そのなかには賞状だけでなく、弟の成績連絡票、通知票などが入つていたということでした。弟によると、賞状の中には一枚だけ、私の高校時代の賞状が入つていたといひます。また、弟の通知票の家庭からの連絡欄には私が記入したコメントもあつたといひのです。弟からは、「しっかりと書いた字で書いてあるよ。時間があつたら、寄つて、見てくんない」と誘われました。

ただ、この電話があつたときは、なにかと忙しく、弟の家に寄る余裕はありませんでした。弟の電話があつてから一週間ほど過ぎた頃だったでしょうか、私が忙いことを理由に弟の家に寄らなかつたものですから、弟はこの「賞状入れ」を紙袋に入れてわざわざわが家に届けてくれました。

わが家の居間のコタツの上で、この「賞状入れ」の箱を出してみました。

箱は縦三〇センチ、横二〇センチ、深さ五センチほどのものです。箱には薄水色、薄茶色の模様が入つていて、その上に黒の太いマジックで「賞状入」と書いてありました。「れ」といふ文字は欠落していましたが、父の文字は大胆でのびのびしているところに特徴があります。「入」といふ字が躍つていました。

「賞状入」と書かれた箱は四十数年前のもので、角はつぶれたり、破れたところがあつたりしています。でも、中に入つていた

通知票も賞状も色が少し黄ばんでいるくらいで、保存状態は良好でした。

箱の中のものをつつと確認してみました。賞状のほとんどは新潟大学書道教育研究会が行つた書道大会のもので、銀賞、銅賞、入選がたくさんありました。すべて弟のものです。私も何枚かもらつてはいるはずですが、ありませんでした。私の賞状で唯一、箱に入つていたのは高校二年時の校内マラソンで七位に入つたときの賞状でした。たしか二位に入つたときのものもあつたはずなのですが、それは見つかりませんでした。

箱は、おそらく一人ひとりの子ども用のものを父が用意しておいたのでしよう。見つかつた箱は大潟区に住む弟のためのもので、通知票や賞状だけでなく、版面も入つていました。弟の通知票は、小学校から高校までのものがほとんどありました。私の賞状は何かの間違いでまぎれ込んだものと思ひます。

電話で弟が教えてくれた、通知票の家庭からの通信欄の私のコメントは弟が源中学校一年時の通知票のなかにありました。

校長は佐藤留五郎先生、担任は倉又廣先生です。正月休みに私が弟の勉強の面倒を少しみたのでしようか、家庭からの欄には、「冬休みに英語を一生懸命教えてみました。成果に御期待を！」のびのびと学習させてください。大いに読書するよう指導お願いします」とありました。びつくりしましたね、こんな生意気なことを書いていたとは。私が自主的に書いたものか、それとも父に書けと言われ

て書いたのかは記憶にありません。弟が数年前に見つけた四十数年前の現金封筒、今回の「賞状入れ」の発見で、改めて父の子どもにたいする愛情の深さを知りました。「ちりも積もれば山となる。為せばなる為さねば成らぬ何事も」が口癖だつた父親がここまで子どもの教育のことを考えていてくれたなんて、感謝の気持ちでいっぱいです。

町内会集会場の耐震診断、耐震補強工事補助制度見直しへ

総務常任委員会の自治・市民環境部の審査で私は、町内会集会場の耐震診断、耐震補強工事、非核平和友好都市宣言推進事業、中山間地域振興事業、移住定住対策事業などをとりあげました。

このうち町内会集会場の耐震診断、耐震補強工事では、まず現状を質問しました。

市内の818の町内会のうち、自分たちの集会場を持っているのは725町内会。このうち今の耐震基準よりも前に造られたものは335町内会の集会所とのことでした。

新年度予算で耐震診断は4件36万4000円、耐震補強工事はゼロの計上となっています。町内会集

所耐震化のスピードアップのために、制度の見直しを求めました。

担当部長からは、「現行の耐震診断（補助率2分の1、補助限度額10万円）、耐震補強工事（補助率2分の1、補助限度額100万円）をコンクリートとせず、町内会長連絡協議会などと相談して決めていきたい」と前向きな答弁をいただきましたので、今後の動きに注目したいと思います。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月8日(水)	3月15日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.050	0.053
東頸消防署	0.047	0.060
高士分遣所	0.040	0.057
名立分遣所	0.057	0.053

藤尾の雪上アート、今年もにぎやかに



大島区藤尾の雪上アート、今年も素晴らしいものが出来上がりました。私は、制作された当日の午後に行き、たまたま出会った家族連れの見学者の皆さんとともに楽しんできました。まだまだ発展しそうですね、このイベントは。